

## ナゴヤをつなげる 30 人 第 3 期 Day4 レポート

2021 年 11 月 16 日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30 人」第 3 期 Day4 が開催されました。

「ナゴヤをつなげる 30 人」は、名古屋に関係する企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、組織やセクターの枠を越え、まるで学校の同級生や組織の同期生のようにフラットにつながりながら、名古屋をより良いまちにしていく取り組みです。集まったメンバーがつながりを深めながら、課題解決のための活動を約半年間かけて立案・実行していきます。今年度はより地域課題に密着するため、中村区と中川区にフォーカスして開催しています。

前回 Day3 では、思いを同じくする 4 つのチームが結成されました。Day4 では各チームによるオープンセッションをオンラインで開催しました。オープンセッションとは、自分たちの取り組みテーマについて意見を聞きたい人、取り組みと一緒に参画してもらいたい人などをゲストにお招きして、対話をおこなう場です。チームごとに、多様なゲストの方に伝えたい思いやアイデアを整理し、問いを立てて議論に臨みました。

### Session1 なかなかツアーズ

地域の魅力を発信するマイクロツーリズムをテーマに企画を構想している「なかなかツアーズ」チームは、大学生やNPO、アーティストや地元企業の方、他地域での魅力発信に貢献している企業の方を招き、「中川区における魅力的なマイクロツアー企画とは」をいう問いを掲げてセッションを開催しました。

中川区の魅力的なところや、好きなおところ、中川区にゆかりのある面白いことをゲストの方々に話していただきました。

■オープンセッションの「問」

【大きな問】  
中川区における  
魅力的なマイクロツアー企画とは??

参加者: 食品メーカー、大学生、アーティスト、ジモトものづくり企業、行政・自治体、NPO

【小さな問】  
・中川区の魅力的なところは？（好きなおところ・穴場スポット・映えスポット）  
・中川区にゆかりのある面白いこと教えてください

The screenshot shows a presentation slide with a central orange oval containing the main question. Surrounding it are six white circles representing different stakeholder groups. Below the slide is a vertical stack of four video thumbnails showing participants in a virtual meeting.

中川運河で地域の魅力発信のため活動している方や、地元企業の方から中川区の魅力や魅力ある場所が語られました。またちょっと見ただけではわからない中川区の魅力もあるというお話や、現代の魅力と、昔物流の大動脈としてにぎわっていた歴史的な魅力の両方が中川区にあるというお話も聞くことができました。

ものづくり企業が多くあることや、歴史、運河の魅力など、ひとつひとつ取り上げるだけでもとても面白いマイクロツーリズムができると思うというエールをいただきました。

また半田市で地域の魅力発信をされている方からは、実際にその地域で住んでいる人、働いている人が中心的に動いて魅力発信を継続していくという観点と、その地域だけではなく外のエリアとのつながりや協力体制も築くという観点で、プロジェクトを考えるのも良いとアドバイスもいただきました。



## Session2 ナゴローバル

「自分と違う人への理解を深めるにはどうすれば良いのか」をテーマにセッションを開催した「ナゴローバル」チーム。様々な立場のゲストをお招きし、5つのトピックについて最近感じたことをシェアしていただきました。

5つのトピックは以下のとおりです。

- ・ SNS で発信するとき、気をつけていることはある？
- ・ 相手に自分の考えを伝えるときに気をつけていることはある？
- ・ 同僚、部下、周囲の人とコミュニケーションで理解できないと感じることはある？
- ・ 違う国の人とのコミュニケーションで、もどかしく感じたことはある？
- ・ どんなことがクリアになるとコミュニケーションがスムーズになりそう？

トピックに沿って、価値観や他者とのコミュニケーションについて様々な意見がでました。「ひとりひとりの価値観が違うことを認め合うことからスタートする」「違う価値観の人を尊重する」「反対意見を受け入れる一方で自分の意見もしっかり持つ」など海外での生活や、他世代との関わる中で感じたことを話していただきました。

また SNS の登場によってコミュニケーションのあり方が変わったというお話も。SNS 上の発言は対一のコミュニケーションとは違う、大勢の人に開かれたものだという自覚を持って発信しているという話題や、情報発信に対する考え方や感じ方も職業や、年齢によって違うこともあるという気づきもありました。

世の中にはミスコミュニケーションしかないというハッとするワードも飛び出し、改めて相手を理解すること、自分が上手く相手に伝えることの重要性を感じるセッションになりました。

### Session3 映画ドラえもん ニーラの駄菓子屋研究所

空き家活用を考える「映画ドラえもん ニーラの駄菓子屋研究所」チームは「空き家×子ども」をテーマにセッションを開催しました。増えていく空き家を活用してコミュニティをつくることや、子どもを対象に空き家で何かできることをテーマに集まったメンバーで、空き家の縁側にいるようなリラックスした形で自由に話していきましょうと呼びかけました。

ゲストには、中村区大門商店街で空き家を活用して駄菓子屋始める方や、神奈川県逗子市で空き家を活用して不登校や発達障害の子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる方をお招きして、実際の活用の様子やどういった思いで取り組まれているのか伺いました。また商店街振興組合の理事長さんや、登録文化財になっている自宅で子どもを対象に能楽教室をされている方にもご参加いただき、チームが取り組む「空き家を子どもに使ってもらうことで何かイノベーションが起きないか」というテーマについて意見を伺いました。

コミュニティの中核となる場を作りたい

こどもの育ちを地域で見守る場作り **空き家のイメージをプラスにしたい**

こどもや高齢者の課題を解決できるコミュニティを作りたい

**人と人が繋がる場が欲しい**

場作りを行い、そこで出た課題を解決したい 空き家の苦情をどうにかしたい

**こどもが過ごしやすい街づくり** リアルSNSを作りたい

学生と地域の人が密着した活動の場が欲しい 空き家を活用したい

空き家活用や子どもの居場所づくりについて、「再開発等で古い建物が壊され、古い町並みがなくなっていくのを何とかしたい」「家に一人である子ども」「公園で遊べない」「家は誰かが住んでいれば悪くならない」「空き家を教材にして、みんなで保守点検する」など様々や思いや、課題感が語られました。

また空き家を活用して子どもの居場所づくりをされている方から、実際の取り組みや運営方法、利用しているお子さんや家族からの反響、苦労話など詳しく伺いました。子ども居場所づくりをする上で、周りの地域や小学校との付き合い方についても話が及びます。子どもたち自身に拠点で行うイベントの企画を考えてもらっているというお話や、地域の高齢者や若者世代も交えることで地域の活性化にもつながるのではないかという意見もいただき、空き家活用の可能性が広がるセッションになりました。

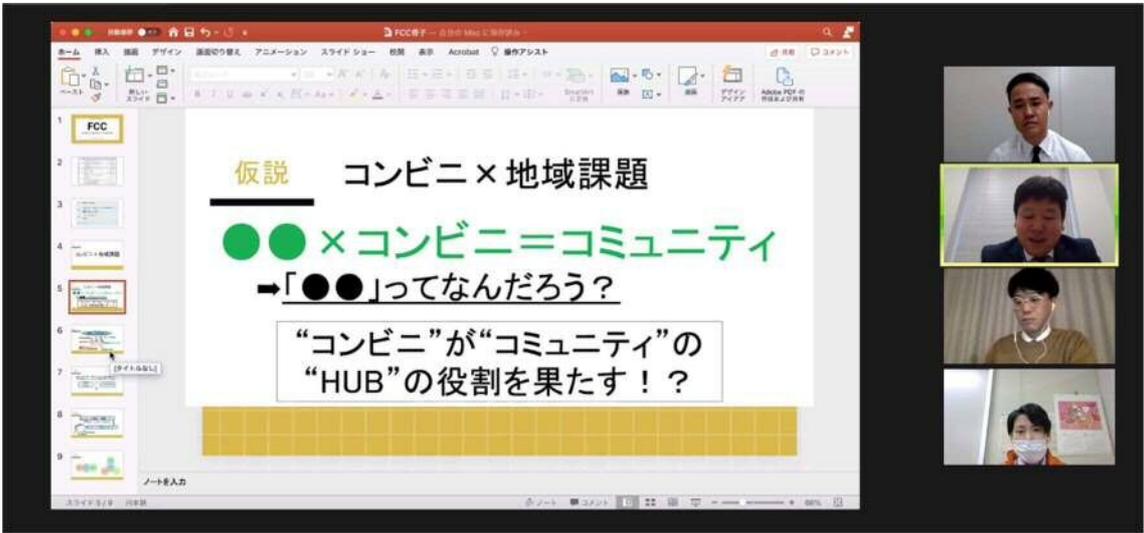
**空き家** **×** **こども**

## Session4 FCC

地域のインフラになっているコンビニを活用して、子どもにフォーカスを当てて、何か地域貢献、地域コミュニティとしての活用ができないか考えるチーム「FCC(ファミリーコンビニエンスコミュニティ)」。ゲストには子どもに関連する現場にいらっしゃる方々と、居場所づくりとしてのまちづくり分野に携わっている方々をお招きして、セッションを開催しました。セッションは二部構成になっており、前半は「地域で子育て・子どもを見守っていくために必要な場所とは」をテーマに、後半は前半の内容を受けて、「何かコンビニで居場所づくりができないか」をテーマに意見を伺います。

まずは若者の就労支援や母子家庭への支援などに携わっている子ども分野のゲストから、コンビニに対するイメージや期待することを語っていただきました。皆さん共通して、子どももお母さんも、誰もが気軽に行ける場所がコンビニであり、そういった場所が、地域を見守り、地域とつながる存在になってほしいという意見が出ました。そして何か問題や悩みを抱えた人にとっての「駆け込み寺」になってほしいという言葉もいただきました。

続いて話題は、居場所づくりをテーマに、まちづくり分野に携わるゲストにお話をいただきました。子どもが楽しめる場所にするためのアイデアといった話題のほか、誰でも入って来られる開かれた場所にするために、色々なところとつながっている場所であることが大切ということで、コンビニの利便性・持っているネットワークの良さを生かせれば、という意見が出ました。



The image shows a Zoom meeting interface. On the left, a presentation slide is displayed. The slide title is "仮説 コンビニ×地域課題" (Hypothesis Convenience × Regional Issues). The main content of the slide is a mathematical-like equation: "●●×コンビニ=コミュニティ" (Two green circles multiplied by Convenience equals Community). Below this, it asks "→「●●」ってなんだろう?" (→ "Two green circles" what are they?). A text box on the slide asks: "“コンビニ”が“コミュニティ”の“HUB”の役割を果たす!?" (Can "Convenience" play the role of a "HUB" for "Community"?). On the right side of the Zoom window, there are four video thumbnails of participants. The top participant is a man in a white shirt and tie. The second is a man in a dark suit. The third is a man in a brown sweater. The bottom participant is a woman wearing a face mask.

チームメンバーが特に興味を持っているヤングケアラーの早期発見についても話題が及びつつ、コンビニの地域連携に携わっているメンバーから具体的に他県で実施した取り組みやフードドライブ、コンビニとしてできること・できないことを語っていただきました。

また居場所づくりとして考えるのであれば、社会課題・地域課題ありきで進めるだけではなく、まずは具体的な場所でやりたい人たちがやりたいことをまずは実施してみて、そこからネットワークを広げていけば動き出せるのではとアドバイスをいただきました。チームメンバー

からも、何か実現しないと、何も進まないから少しでもいいから具体的に動いていきたいと発言がありました。

丸一日かけて実施した「ナゴヤをつなげる 30 人」第 3 期のオープンセッションで、各チームが自分たちで掲げたテーマや課題と向き合い、ゲストとの意見交換を通じて、多くの気づきやアイデアを得たと思います。今後どのようにプロジェクトの具現化が進んでいくのか。最終発表に向けて残すところあと 2 回です。